

なんかい

NANKAI

vol. 114

2019.5

南海寮 広報委員会

熊本県天草市本町下河内1685番地の1

TEL 0969-23-3850

FAX 0969-22-4977

Mail keiyukai@cup.ocn.ne.jp

URL <http://www.nankairyou.or.jp/>



新時代への変革と挑戦

副施設長 松浦光毅

約30年続いた平成の時代が終わり、元号を「令和」とする新しい時代が幕を明けました。平成と同じく、新時代を象徴する言葉として、「令和」への期待が高まる一方で、超高齢社会や社会保障費の急増、地方消滅などの将来的に予想される多様な問題に対して、この時代を生きていくであろう世代の一人として憂慮しています。今後も政府による構造的な改革は進んで行くと思われ、これまで私たちが「普通」としてきた標準的な人生設計モデルは消滅し、加えてテクノロジーの分野の急激な技術革新によって教育やビジネス、生活様式が様変わりし、社会の仕組みが加速度的につくり変えられていくと言われています。つまり

実施・展開している法人も多くなりました。措置の時代、社会福祉法人が一律に事業を展開していた旧態依然とした在り方や、画一的な金太郎飴のようなサービスでは、多様なニーズへの対応や、質の高いサービスの提供が困難となっています。社会が求めている変化に応じて、私たちもまた変わっていく必要があります。

は、これまでの既成概念や既成価値が変化し、新たな価値が台頭していく時代になっていくという事です。障がい福祉の分野においては、平成15年の支援費制度を皮ぎりに、自立支援法や障害者総合支援法、社会福祉法人制度の大改革など、この十数年の間に目まぐるしく変化しており、ニーズの複雑化・多様化により福祉サービスの種別や内容、経営主体においても十数年前と比較すると大きく変容しています。その中で、独自の創意工夫や新たな価値の創造によって先進的な取り組みや事業を

昨今、ボランタリー（自発的無償な行動）やサステナビリティ（持続可能性）といった道徳的な価値観や考え方が社会の中で大きな地位を占め始めており、物質的な豊かさから精神的な豊かさへと価値をおく時代へと変わりつつあります。社会福祉においては、その象徴として「地域共生社会」が掲げられ、その実現に向けた社会福祉法人の実践が期待されているところです。社会福祉法人が先頭に立って行動を起こし、地域と共に創造していく「共生・共創」に向けた実践が求められている中で、新たな時代を生きていく私たちは、改めて「福祉」という不変且つ普遍的な理念を再認識し、その上で常に変化を求め、居心地の良い場所から抜け出すような変革と挑戦を続けなければなりません。そのために、個人や組織が今何をすべきかを職員全員で考え、行動していく、そんな新年度にしていきたいと思えます。

今年度は「変革と挑戦」を合言葉に、支援現場では「3本の柱」として以下の3つの重点目標をかかげました。

一つ目が「意思決定支援、高齢化支援、社会生活支援を充実させよう」、2つ目に「何事にも興味と関心を持って、組織を知り、チームを知り、仕事を知らう」、3つ目が「利用者さんに対して親しみのある丁寧な言葉づかいと対応を徹底しよう」この3つの重点目標やそれぞれの部署目標に対して、支援現場の主任支援員に意気込みを書いてもらいました！

● ひまわり棟

主任 森山 房雄

30年続いた平成の時代も終わり、新しい年号の元、ひまわり棟の主任の職を預り10年が過ぎました。今年度は、「意思決定支援、高齢化支援、社会生活支援の充実」「何事にも関心を持って組織、チーム、仕事を知っていく」「利用者に対して親しみのある丁寧な言葉づかいと対応」を目標として取り組んでいきます。

利用者の方も年々高齢化が進んでいます。入所利用者の最高齢が81歳で、一番若い方が26歳、平均年齢は57・1歳となっております。高齢化で歩行力や口腔内の機能低下が以前より増して進んでいます。それを少しでも維持していけるように日々の支援が欠かせない現状で、当たり前の事を当たり前として確実に遂行できるように一丸となって進めていきます。また充実した毎日が送れるようにに外出や買い物、展示即売会への参加などを通して、より社会と繋がりをを持った経験作りや楽しさを増やし、利用者の方々からの声や要望を尋ねながら一緒になってより密接な

関係作りをしていきます。同時に自分でできる事は自分でして貰い、自立の芽を伸ばせるように、できる事にまで手を下さず、見守る姿勢も重要と考えます。また、ビニールハウス等も新しく整備されましたので今後は、苗物などの生育もチームを挙げて取り組み、部署を超えてみんなが理解し、関わる事ができる形態なども進めていきます。室内作業においても「とれたて市場」「海鮮蔵」への納入なども含めた作品作りを継続して一緒に物作りから販売までを行い、ひまわり棟、さくら棟という垣根を越えてチームで支援をする意識を持って対応をしていきます。

利用者の方々には毎日が楽しいと言って頂ける様に、言葉掛けや支援なども「痒い所に手が届く、思いやりのある支援」を目指して今後もチャレンジをしていきます。これからもよろしくお願ひします。

● さくら棟

主任 唐津 伸康

新館へ引っ越しをして早や1年半が経とうとしています。利用者の方

々や職員も新館に慣れて来たと思いますが、その中でも色々な課題が出てきたと思います。今年度はそれらの課題を克服して新たな支援も検討していかなければならないと感じています。南海寮では、今年度のスタッフの重点目標として3本の柱を掲げております。1つ目に、さくら棟では高齢化や重度化が進んでおり、それらを少しでも遅らせる取り組みや残存機能を維持していくために、理学療法士のアドバイスをおおぎながら、より専門的なりハビリに取り組んでいかなければならないと思います。日常生活の中にもリハビリを中心に余暇時間などちよつとした時間に手脚のマッサージや長椅子に座っていただいての座位保持、食事の際に車椅子より椅子への移乗など色々とアイデアが出され、それらを実践しています。部署の会議に限らず、日頃から全員で意見を出し合いながら支援に繋げて行きたいと思っています。

2つ目に、作業に参加できる利用者もいらっしやるのでひまわり棟と協力しながら作業室での花台磨き等

の木工作业への参加を勧めながら興味を示される事やできる事など色々な経験の場を増やして行きたいと思っています。また昨年度より意思決定支援を強化しています。さくら棟の利用者の方々には自分の意思や意見、要望などを伝える事が困難な方が多くおられますが、普段の生活の中でよりコミュニケーションを図り、関わりを通して様々な気づきも出てくると思います。そのような気づきやそれぞれの思いを汲み取り、本人さんたちの要望をいかに捉える事ができるか、職員間でその都度意見を出し合い共有しながら、意思決定支援に繋げて行きたいと思っています。

3つ目に利用者さんへの対応や声掛けを行う際は丁寧な言葉遣いの中にも親しみを持ってもらえるようスタッフ全員が心掛けていきたいと思っています。最後に今年度が利用者の方々にとって楽しい一年であるよう職員が連携し、報告・連絡・相談を徹底できるよう主任として自分が何をしないといけないかを常に考え行動し、副主任と協力しながら棟の運営を行っていききたいと思っています。

花見



味千ラーメンボランティア



弁当バイキング



利用者が毎日楽しく、笑顔溢れるように

支援員 鶴戸 愛

全体会の講演「天使がこの世に降り立れば」で、書家の金澤翔子さん（ダウン症）の事を、同じく書家であり、母親でもある金澤泰子さんが話されました。

翔子さんを育てる過程で、孤立する事もあったが、どんな時も翔子さんは前向きで、明るくすべての人を喜ばせたいとの気持ちで自然とあふれる不思議な子供で、その姿勢や感情に触れることで、自分の価値観も変わっていったと話されました。金澤泰子さんのお話の中で、私が一番印象に残っているのは、「生きてさえいれば絶望はない。」という力強い言葉でした。翔子さんが生まれてから、今までの経緯を話されましたが、生まれた時には「私は世界で一番不幸な母親。」と思われたそうです。しかし、33年が経ち、翔子さんが海外の式典に呼ばれ、壇上の上から堂々とスピーチされる姿を見て、「私は世界で一番幸せな母親だよ。」とスピーチが終わった翔子さんに話され

たそうです。今まで、私が想像できないような苦労と苦悩を経てこの気持ちに辿り着いたのだと思います。

現在、翔子さんはヘルパーなどの利用もなく、ダウン症の方では初めて（金澤泰子さん談）完全な一人暮らしをされており、商店街の中ほどにあるアパートから、毎日小銭を握りしめて商店街に買物に行き、町の人と話し、その繰り返しの日々で、街の人達が翔子さんが買物に来るのを楽しみに待たれているほどで、その商店街は今「翔子通り」と言われているそうです。また、最近買物をされて自分で作った料理は「豆腐ハンバーグ」で、美味しく作れたと嬉しそうに話されていました。母親の「何でもやらせてみる事。してみないと分からないのだから。」との言葉に、私たちの支援においても同じ事が言えると思えました。利用者さんには、無限に広がる可能性があります。その可能性を私達が広げてあげられるように支援して行きたいと思えました。また、とても明るい翔子さんを見て、私も利用者さんが毎日楽しく笑顔溢れるように一日一日しっかり支援していきたいと思います。

個別支援計画とアセスメントの重要性

支援員 藤木 博文

今回の研修会において、自閉症支援をする上でのアセスメントと個別支援計画作成について学ばせて頂きました。個別支援計画とはどの事業所でも作成されているもので、個人の目標や課題に対して、どのような支援を行うのかを解りやすく記載したものです。また、アセスメントとは個別支援計画作成前に、持っている能力や生活環境を把握・確認した上で、生活全般の課題を明確にし、今後のケアに必要な見通しや方針をたてる為に行われるものです。

講師の話聞き、アセスメントを行う際に最も大切になるのが「その人を知る」という事だと改めて学びました。人それぞれ性格が違うように、一人ひとり個性や特性は違います。その個性や特性を知り、把握することは一人ひとりに寄り添った計画作成に繋がり、作成した計画を職員が共有する事で支援者がチームとなり、統一したケアに繋がるのではないで

しょうか。日々の支援の中で観察を行いながら「できるようになって来た事」や様々な変化に気付く事が大切だと再認識することもできました。できるようになるまでの過程に、私達支援者がどのようなアプローチを行い、普段の生活を送って頂いているのかという事が、一番大切にしなければいけない事だと思います。アプローチの方法一つでできたり、できなかったりする事もあるので、支援者は利用者を知り、習得した専門的知識を活用して、一人一人の利用者に合った関わりをする事が職務だと感じています。

私は南海寮に入職して1年半になるうとしていますが、諸先輩方を見て小さな変化に気づく力を習得されているなど実感しています。専門職として「気づき」を磨くとともに、利用者寄り添って、利用者本人や家族の方が何を求められているのか、必要な支援は何なのかを関わりの中で見つけていき、職員が協力しながらチームで支援ができるように勉強をしていきたいと思えます。この研修を通して支援をする上でアセスメントや個別支援計画がいかに大切なのかという事を強く感じた研修でした。

通所センターだより

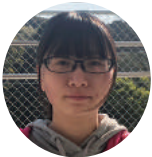


「今年の西の久保公園は桜が例年より多いですね。」散歩中に公園でよく会う常連の方との会話です。実際に桜は咲き誇り、歩く道は桜の絨毯となっています。その中を散歩するので非常に気持ち良く、気分が上がっていくのを感じます。中には花見をする為に、お弁当を持参されている人もちらほら見かけました。美しい景色に、おいしいお弁当…考えただけでよだれが出そうです。南海寮でもお弁当バイキングがありますので、密かに楽しみにしています。

そんな中、センターでは新しい仲間が増えました。去年は他事業所に異動される方もいてちょっぴり寂しい時期がありましたが、徐々に新しい仲間と馴染んできている様子です。また、日課の充実を目指して、班（音楽班、学習班、給食班、生活班、運動班、活動班）を作り、各々が選んだ班に所属して班活動を行っています。まだ軌道に乗っていませんが、音楽班は「今聞きたい曲」のアンケートの実施、CD作成を予定しています。その他全体として、お店を選択しての外食を計画中です。天気の良い日の歩行、雨の日の室内レクリエーションと例年の日課も継続しながら、今年度も元気に楽しく新しい一年になるよう取り組んでいきます。

浦上 寛司

新任職員



小場 佐萌々香
(清掃員)



田淵 竜法
(支援員)



就職フェアFUKUSHI meets!@熊本

昨年に引き続き今年も県内の社会福祉法人が共同で開催する就職フェアに出展致しました。残念ながら現時点まで採用には至っておりませんが、出展した他法人との横の繋がりや情報交換など若手職員育成の機会として大変有意義なもので、フェアを通して様々なことを経験し、多くの学びを得る事ができました。

松浦 徳彦

福祉サービス第三者評価受審結果掲載のお知らせ

平成30年度、福祉サービス第三者評価を受審しました。この評価受審は、公正・中立な第三者評価機関が、専門的かつ客観的な立場からサービスの評価を行い、サービスの質の向上を図ることを目的とした受審であり、当施設は今回で3度目の受審となります。結果については下記の当法人ホームページ、もしくは熊本県のホームページからご覧いただけます。

●自法人HP…<http://nankairyuu.or.jp/disclosure/> ●熊本県HP…https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_3140.html

編集後記

通勤の行き帰りにすれ違う小学生。中でも、新しいランドセルを背負った新一年生を見ると、その初々しさに自然に笑顔がこぼれ「みんながんばってね」と励ましくなります。

当施設でも新年度を迎えるにあたり、新しい目標を立て、それに向かい始動したところです。自分も気持ちを新たにがんばろうと意気込んだ矢先、なんと帯状疱疹にかかってしまい出鼻をくじかれてしまいました。頑張り過ぎ？ストレス？まさかの出来事に落ち込みましたが、「もうちょっとゆとりをもって、がんばりすぎないで」という合図だったのかもしれない。スタートが肝心と気合十分で仕事に取り組む事も大切ですが、自分の身体や心とも相談しながら。時には肩の力を抜きリラックスしましょう。本号には利用者さんの笑顔がいっぱい掲載されています。疲れた～と感じたらページをめくってみてください (笑)

松下加津美

職員研修会等参加報告

- 九州地区種別部会合同研修(2月) 中嶋、松浦徳高瀧
- スーパーバイザー養成研修(2月) 高瀧
- 天草地域福祉ネットワーク事業研修会(2月) 田中雄、金子史
- 職員・家族合同研修会(2月) 原田、大仁田他
- 指導監査結果等説明会(2月) 松浦光
- 相談支援連絡協議会臨時総会(3月) 松本か
- 災害に強い施設づくり研修会(3月) 中野
- わるつ連続講座フォローアップ研修(3月) 金子恵、松浦徳
- 強度行動障害支援者実践研修(3月) 坂本悠、高瀧

今後の予定

- 5月 2日 南海寮創立記念食卓会
- 5月12日 天草地区施設合同体育大会(愛藍びっく)
- 6月1日～9日 花しょうぶまつり(製品出店販売)
- 7月 第三者委員会